

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：17601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2021

課題番号：19K23319

研究課題名（和文）日本型教育「創作ダンス」の海外輸出（EDU-Port）の展開モデル

研究課題名（英文）Japanese style educational "creative dance" method as a deployment model for overseas export(edu-port)

研究代表者

豊福 彬文（TOYOFUKU, AKIFUMI）

宮崎大学・国際連携センター・客員研究員

研究者番号：00843319

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的（「EDU-Portニッポン」パイロット事業として「NPO法人MCDC」が形成した「創作ダンス」の海外展開モデルの汎用性を実証する 本研究の成果を日本に逆輸入し「創作ダンス」の取組数の増加を図る）を達成するために、7カ国で海外展開モデルの実践研究を行なった。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンラインを活用した実践研究にシフトし、「双方向の学び」や「日本の教育の問い直し」（EDU-Port2.0）のコンセプトに沿った持続可能な海外展開モデルをデザインした。今後の課題と共に「創作ダンスの海外展開」が誰一人取り残さない世界（SDGs）の実現に貢献する事業であることを学会等で報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

持続可能な開発目標（SDGs）においては、教育が目標の一つに位置づけられている（2016年）。G7倉敷教育大臣会合において採択された「倉敷宣言」においても、教えや学びの改善を通じてSDGsに貢献することが盛り込まれている。こうした状況の中、官民協働のオールジャパンで取り組む「日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Portニッポン）」が開始した。2021年度までの5年間で世界36の国と地域で数多くの事業が実施されている。その中で「ダンス」を取り扱ったプログラムは本研究対象の1件だけであることから、「創作ダンス」の海外展開モデルの構築は意義のある実践研究である。

研究成果の概要（英文）：In order to achieve the aims of the present study ([1] to demonstrate the versatility of the overseas development model of the "SOUSAKU-DANCE" formulated by "NPO MCDC" as a pilot program of "EDU-Port Japan", and [2] to reimport the results of this study into Japan in order to increase practitioners of "SOUSAKU-DANCE"), practical research was undertaken in seven countries. In response to the spread of COVID-19, the study shifted its focus to practical research utilizing online methods, and designed a sustainable overseas development model consonant with the concepts of "bidirectional learning" and "the reconsideration of Japanese education." It was concluded that the "overseas export SOUSAKU-DANCE" is a program that contributes to the realization of a world in which no one is left behind (SDGs), and this finding, as well as directions for future research, was reported at academic conferences and other venues.

研究分野：舞踊・舞踊教育

キーワード：創作ダンス SOUSAKU-DANCE EDU-Portニッポン 日本型教育の海外展開 SDGs 持続可能 双方向の学び 日本の教育の問い直し

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

2016年9月に国連本部で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の一つが、「4. 質の高い教育をみんなに」である。同じく9月に「G7 倉敷教育大臣会合」で採択された「倉敷宣言」にも、教育の果たすべき新たな役割として、①「社会的包摂」、「共通価値の尊重」の促進、②新しい時代に求められる資質・能力の育成、③新たな役割を果たすための国際協働の更なる推進が盛り込まれた。2016年、文部科学省も、関係府省や国際協力機構（JICA）、日本貿易振興機構（JETRO）、地方公共団体、教育機関、民間企業、NPOなどが協力してオールジャパンで取り組む「日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Port ニッポン）」（以下、「EDU-Port ニッポン」という。）を開始した。以上が本研究の背景となっている。

加えて、日本では、グループ単位（小集団）で協働して、正解のない課題に創造的・創作的に取り組む「芸術表現体験活動」が重視されるようになり、「集団創作として共通の目標のもとに、努力を共にし、達成に至るプロセスを持つ」「個性の開発と共に、社会的個としての拡充、社会的人間としての連帯の契機を潜在させているダンス体験」＝「創作ダンス」が再見されている。しかし、平成24年度（2012年度）に中学校の「ダンス」が必修化されたにもかかわらず、主内容の「創作ダンス」に限れば、取組数は減少傾向にある。この「創作ダンス」（小学校は「表現」）の実態も本研究の背景となっている。

## 2. 研究の目的

本研究の海外展開モデルとなる「身体形成と芸術体験を融合させた日本型ダンス教育『創作ダンス』の海外輸出」（以下、「『創作ダンス』の海外輸出」という。）は、非営利活動法人 MIYAZAKI C-DANCE CENTER（以下、「NPO 法 MCDC」という。）が、宮崎大学及び宮崎県とパートナーシップを組んで応募・採択された2017年度「EDU-Port ニッポン」のパイロット事業である。活動成果（ルーマニアをはじめとする実施国の教育への影響）については、2018年度 EDU-Port シンポジウム（2019年3月7日／文部科学省）の事業実施報告会で報告した。しかし、この「『創作ダンス』の海外輸出」が、誰一人取り残さない世界（SDGs）の実現に貢献するパイロット事業であるかについては未だ明らかにしていない。そこで、本研究では、これを、本研究の核心をなす学術的な「問い」とし実践研究する。

研究の目的は二つ。一つは、2017・2018年度に、「NPO 法人 MCDC」が、国際的にみても子どもの貧困率が高いルーマニアで形成した海外展開モデルを、子どもの貧困の格差が急激に広がる傾向にあるイタリアで実践研究する。併せて、この海外展開モデルの汎用性（殊に、子どもの貧困とその格差の解消を課題とする国の汎用性）を明らかにする。他の一つは、本研究の成果を日本に逆輸入し、「創作ダンス」や「表現」の取組数の増加を図ることである。

## 3. 研究の方法

研究1年目（2019年）は、「NPO 法人 MCDC」が形成した海外展開モデルの強度を高めることを目的に、まずルーマニアのシビウ市とブカレストで、『創作ダンス』の海外輸出』についての成果・課題を聞き取り調査し、「創作ダンス」のワークショップ型授業を参与観察する。聞き取り調査の対象は、学校・教員、児童、公共文化施設、アーティスト等とし、「創作ダンス」の海外展開モデルに対する感想や意見を集約する。また、イタリアの在イタリア日本国大使館の指導の下、日本の文部科学省に近い文化財・文化活動省（Italian ministry of culture）や Interno 5 danza に協力を仰ぎ、強度を高めた展開モデルをイタリアの現地校で実施する。

研究2年目（2020年）は、海外の芸術団体・教育団体と連携し実践研究することで「創作ダンス」の海外展開推進モデルをデザインする。加えて、イタリアだけではなく「ダンス」の学びが保障されていない国での横断的な展開の可能性も探る。

以上が研究開始当初の方法であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う海外渡航の自粛により、予定していた海外での実践研究はすべて延期・中止せざるを得なくなった。そこで、オンラインを活用した研究方法に変更し、併せて補助事業期間の延長を申請・承認を得た。

## 4. 研究成果

### （1）2019年度（1年目）

「NPO 法人 MCDC」が形成した海外展開モデルには2つの手法がある。一つは、「創作ダンス」に興味・関心のある現地の芸術団体がファシリテートする「芸術団体等展開型」、他の一つは、海外の日本人学校を足がかりにその地域に輸出する「海外日本人学校等展開型」である。当初の計画では、初年度はイタリア（新規実施国）で「芸術団体等展開型」の展開モデルについて実践研究することになっていた。しかし、実施団体の「NPO 法人 MCDC」と現地の受け入れ団体である「Interno 5 danza」との日程調整がうまくいかず断念した。そこで、新規実施国をクロアチアとアメリカとし、海外展開モデルを実践研究した。また、「海外日本人学校等展開型」についても、イタリアのローマ日本人学校等を候補校としていたが断念し、引き続きブカレスト日本人学校で海外展開モデルを実践研究した。初年度は、5カ国で海外展開モデルの実践を参与観察し、聞き取り調査を行なった。図1にそれぞれの実施内容について示す。

図1 2019年度に取り組んだ海外展開モデルと実際

<p>韓国 2019.6</p>	<p>&lt;展開モデル&gt;芸術団体等展開型 &lt;観察内容&gt;現地の芸術団体「International Performing Arts Project」の協力の下、チェジュ島のエウォル小学校トログ分校で行われた「創作ダンス」のワークショップ。講師は、「んまつー波斯」の野邊壮平と児玉孝文。参加者は、第3・4学年65名と5・6学年50名。時間及び回数は、90分2回。</p>	
<p>中華人民 共和国 2019.10</p>	<p>&lt;展開モデル&gt;芸術団体等展開型 &lt;観察内容&gt;現地の芸術団体「Beijing Shouze Arts Center」が主催する「Creative Dance Teaching Training Course vol.1」のプログラム「創作ダンス」。講師は、「んまつー波斯」の野邊壮平、研究協力者の高橋るみ子（宮崎大学/舞踊教育学）、野邊麻衣子（上海日本人学校虹橋校教諭）。参加者は、現地の小・中学生35名、ダンスの指導者約80名。時間及び回数は、90分×4回。</p>	
<p>ルーマニア 2019.11</p>	<p>①&lt;展開モデル&gt;芸術団体等展開型 &lt;観察内容&gt;現地の芸術団体「Gong theater」の協力の下、現地の小学校「King Ferdinand School」と「Scoala Gimnaziala Nr25 Sibiu」で行われた「創作ダンス」のワークショップ。講師は、「んまつー波斯」の野邊壮平と児玉孝文。前者の参加者は、第4学年20名。後者の参加者は、第6学年17名。時間及び回数は、それぞれ45分を1回。 ②&lt;展開モデル&gt;海外日本人学校等展開型 &lt;観察内容&gt;ルーマニア日本国大使館の協力の下、ブカレスト日本人学校で行われた「創作ダンス」のワークショップ。講師は、「んまつー波斯」の野邊壮平と児玉孝文。参加者は、全校児童生徒10名と教員。時間及び回数は、90分1回。</p>	
<p>クロアチア 2019.11</p>	<p>&lt;展開モデル&gt;芸術団体等展開型 &lt;観察内容&gt;現地の芸術団体「Kozlici」の協力の下、現地の小学校「Osnovna skola Matka Laginje Zagrebs」で行われた「創作ダンス」のワークショップ。講師は、「んまつー波斯」の野邊壮平と児玉孝文。参加者は、第3・4学年65名。時間及び回数は、45分2回。</p>	
<p>アメリカ 2020.1</p>	<p>&lt;展開モデル&gt;芸術団体等展開型 &lt;観察内容&gt;Jacksonville Universityと連携して行われた「創作ダンス」のワークショップ&amp;デモンストレーション。講師は、「んまつー波斯」の野邊壮平、研究協力者の高橋るみ子（宮崎大学/舞踊教育学）参加者は、「創作ダンス」に強い関心を示している Jacksonville University 芸術学部准教授の Yidi Lin 氏のクラスを受講している学生約80名。時間及び回数は、210分5回。</p>	

<特筆すべき聞き取り調査の結果>

- 中国は、コピーから想像力と創造力の育成に教育方針が変わりました。体育でも、そうした力を育成するメソッド「創作ダンス」を欲しています。（Shouze Ma/Beijing Shouze Arts Center 芸術監督/中華人民共和国）
- 毎年楽しみにしていた「創作ダンス」ワークショップも今年で4年目、創ったメンバーも違うと活動も新鮮になり、新しい発見がたくさんありました。僕は来年帰国なので、日本でもまた学びたいです。（生徒/第3学年/ブカレスト日本人学校）
- 友達と話し合っ創るダンスが楽しかったし、他のグループのダンスも良かった。このような機会があったらまた参加したい。（児童/第4学年/King Ferdinand School）
- ダンスを創作する体験は初めてのことでした。このような学びの機会を今後も続けていきたい。（小学校教員/Osnovna skola Matka Laginje Zagrebs/クロアチア）
- 喜びは、新しい試み、ユニークなアイデア、そしてあなたたちのオリジナルのダンス方法で前進することから来ています。将来、もっと協力できることを願っています。（Yidi Lin/Jacksonville University 芸術学部准教授/振付家/アメリカ）

初年度の実施国はいずれも多様な価値観が存在する国であり、参与観察を通して、「NPO 法人 MCDC」が形成した『創作ダンス』の輸出」展開モデル（の「芸術団体展開型」）については汎用性があることがわかった。また、アメリカでは、Japan Society（ニューヨーク）に「芸術団体展開型」の実施を働きかけたが、初年度については実現しなかった。代わりに Jacksonville University で新しい展開モデル「大学展開型」を実践研究することができた（特筆すべき成果）。

（2）2020年度（2年目）

新型コロナウイルス感染拡大と海外渡航の自粛に伴い計画及び内容を大幅に変更・縮小し、2年目の目標を、オンラインによる持続可能な「創作ダンス」の海外展開モデルのデザインとした。また、海外展開モデルの実施に代えて、シンポジウムや学会等で積極的に中間報告を行なった。

海外での実践がすべて延期・中止となった中で、唯一、上海日本人学校で教師支援を目的とした遠隔ワークショップを実践研究することができた。画面を通じた参与観察に加えて実施校の教員（本研究の協力者）が授業を参与観察し、聞き取り調査を行なった。また、初年度に展開モデルに加えた「大学展開型」については、アルバニアの芸術大学 University of Arts (UART) と、年度内のコロナ禍終息を前提に実施する方向で話を進めていたが実現には至らなかった。

2020年度（2年目）は、2カ国の実践（オンライン）を参与観察し、聞き取り調査を行ない、中間報告も4件行なった。図2・図3にそれぞれの実施内容について示す。

図2 2020年度に取り組んだ展開モデルと実際

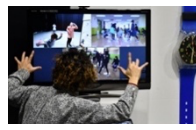

中華人民共和国 2020.10	<p>&lt;実施モデル&gt;海外日本人学校等展開型</p> <p>&lt;観察内容&gt;上海日本人学校虹橋校で行われた「創作ダンス」の遠隔ワークショップ。講師は、ダンスカンパニー「んまつーボス」の野邊壮平と児玉孝文。参加者は、第6学年75名。時間及び回数は、80分×3回。</p>	
ルーマニア 2020.11	<p>&lt;実施モデル&gt;海外日本人学校等展開型</p> <p>&lt;観察内容&gt;ルーマニア日本国大使館の協力の下、ブカレスト日本人学校の家庭学習を支援を目的とした「創作ダンス」の遠隔ワークショップ。講師は、ダンスカンパニー「んまつーボス」の野邊壮平。参加者は、全校児童生徒7名と教員。時間及び回数は、90分1回。</p>	

図3 2020年度に実施した中間報告

2020.8	<p>&lt;事業名&gt;「EDU-Port ニッポン」トピックセミナー（体育教育）</p> <p>&lt;主催&gt;文部科学省</p> <p>&lt;講演者&gt;豊福彬文（研究代表者）※Online: Zoom</p> <p>&lt;報告内容&gt;インクルーシブ教育を推進する表現運動（学校体育領域）の輸出</p> <p>&lt;その他&gt;他の講演者：斎藤祐介氏（スポーツ庁）、白旗和也氏（学校法人日本体育大学）</p>
2020.12	<p>&lt;事業名&gt;第72回舞踊学会大会一般研究発表</p> <p>&lt;主催&gt;第72回舞踊学会大会実行委員会</p> <p>&lt;発表者&gt;豊福彬文（研究代表者）※Online: Zoom</p> <p>&lt;発表内容&gt;芸術家×教師の新しい協働からみえたオンライン授業の可能性</p>
2021.1	<p>&lt;事業名&gt;「Children Creative Movement Forum vol.1」(China×Canada×Japan)</p> <p>&lt;主催&gt;Unlock Dancing Plaza（香港）</p> <p>&lt;発表者&gt;高橋るみ子（宮崎大学産学・地域連携センター客員教授）※Online: Zoom</p> <p>&lt;講演内容&gt;The development and practice of “Creative Dance” in Japanese-style dance education</p> <p>&lt;その他&gt;他の発表者：Anna CY Chan（中華人民共和国）、Ann Kipling Brown（カナダ）</p> <p>&lt;パネルディスカッション&gt;パネラー：The Hong Kong Academy for Performing Arts（香港）、Rice Journey Studio（香港）、身體遊樂場（香港）、んまつーボス（日本）</p> <p>&lt;その他&gt;フォーラム参加者数：のべ120名。</p>
2021.3	<p>&lt;事業名&gt;2020年度EDU-Portシンポジウム</p> <p>&lt;主催&gt;文部科学省</p> <p>&lt;実施形式&gt;ハイブリット方式 On-site：全国都市会館2階大ホール/Online: Zoom</p> <p>&lt;活動紹介&gt;NPO法人MCDC（副代表/豊福彬文）</p> <p>&lt;報告内容&gt;日本型ダンス教育「表現運動・創作ダンス」の海外輸出</p> <p>&lt;その他&gt;他の活動紹介：福井大学（高阪将人）、ヤマハ株式会社（清田章史）</p>

<特筆すべき聞き取り調査等の結果>

- オンラインという壁が実は壁ではないということに気づき、オンラインの可能性を見直すきっかけとなる実践でした。ぜひ継続実施したいです。」（担当教員/上海日本人学校虹橋校/派遣：静岡県）
- 「創作ダンス」を通して、友達からいろいろな意見を聞くことができました。違う価値観に触れることができた。（児童/第6学年/上海日本人学校虹橋校）
- 『「正解がない」という教育のあり方、『個性を尊重する』教育のあり方、これも日本の社会が、自分たちの社会の教育のあり方を考えるときに、もう一度見なければならぬ、というように感じました。」（北村友人/東京大学/2020年度EDU-Portシンポジウム）

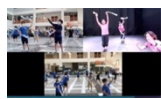




以上、2年目は、コロナ禍の影響を受けて、「芸術団体等展開型」「大学展開型」の海外展開モデルの参与観察は難しかったが、特筆すべき成果は、オンラインという手法を積極的に活用したことで、持続可能な「創作ダンス」の海外展開モデル（の「海外日本人学校等展開型」）をデザインすることができたことである。

(3) 2021年度（3年目）

「EDU-Port ニッポン」が終了し、新たに「令和3年度コロナ禍を踏まえた新たな日本型教育の戦略的海外展開に関する調査研究事業（EDU-Port ニッポン2.0）」がスタートし、「NPO法人MCDC」も、「日本型ダンス教育『SOUSAKU-DANCE』のオンライン海外輸出」プロジェクトで応募・採択され、新たなスタートを切った。本研究も、「双方向の学び」や「日本の教育の問い直し」をコンセプトにした「EDU-Port ニッポン2.0」にシフトし、3年目の実践研究を計画した。

新たにシンガポール、オーストラリア、韓国の海外日本人学校で、前年度にデザインしたオンラインによる持続可能な「創作ダンス」の海外展開モデル（の「海外日本人学校等展開型」）を実践研究した。特に、継続実施校の上海日本人学校虹橋校とは、中華人民共和国が抱える課題・ニーズに応えるものを「双方向の学び」（EDU-Port ニッポン2.0）を目的に、「創作ダンス」の教材を共同開発し、最終的には日本にフィードバックしていくための実践研究（日本の教育の問い直し）を行なった。2021年度（3年目）は、4カ国の実践（オンライン）を参与観察し、聞き取り調査を行なった。図4にそれぞれの実施内容について示す。

図4 2021年度に取り組んだ展開モデルと実際

シンガポール 2021.9	<p>&lt;展開モデル&gt;海外日本人学校等展開型</p> <p>&lt;観察内容&gt;シンガポール日本人学校小学部チャンギ校で行われた「創作ダンス」の遠隔ワークショップ。講師は、ダンスカンパニー「んまつー波斯」の野邊壮平と児玉孝文。参加者は、第6学年65名。時間及び回数は、40分×3回。</p>	
オーストラリア 2021.11	<p>&lt;展開モデル&gt;海外日本人学校等展開型</p> <p>&lt;観察内容&gt;シドニー日本人国際学校で行われた「創作ダンス」の遠隔ワークショップ。講師は、ダンスカンパニー「んまつー波斯」の野邊壮平と児玉孝文。参加者は、第4学年13名。時間及び回数は、90分×1回。</p>	
中華人民共和国 2021.11	<p>&lt;展開モデル&gt;海外日本人学校等展開型</p> <p>&lt;観察内容&gt;上海日本人学校虹橋校で行われた「創作ダンス」の遠隔ワークショップ。講師は、ダンスカンパニー「んまつー波斯」の野邊壮平と児玉孝文。参加者は、第6学年86名。時間及び回数は、80分×2回。</p> <p>&lt;実践報告&gt;虹橋校と共同開発した「創作ダンス」教材を「第73回舞踊学会大会」（2021年12月）で報告した。研究題目は『子供のゲーム依存症の防止に資するダンス教材「ゲームごっこ」の実践研究』。</p> <p>&lt;その他&gt;虹橋校で行われた「創作ダンス」の遠隔ワークショップの様子が、海外子女教育振興財団誌（2022年1月号）に掲載された。虹橋校と共同開発した教材『ゲームごっこ』は、KIDS DESIGN AWARD 2021「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」に応募し、第15回キッズデザイン賞を受賞した。</p>	 
韓国 2022.2	<p>&lt;展開モデル&gt;海外日本人学校等展開型</p> <p>&lt;観察内容&gt;ソウル日本人学校で行われた「創作ダンス」の遠隔ワークショップ。講師は、ダンスカンパニー「んまつー波斯」の野邊壮平と児玉孝文。参加者は、第5学年25名。時間及び回数は、90分×1回。</p>	

<特筆すべき聞き取り調査等の結果>

- 私は今回のオンラインの活動を通して「創作ダンス」の楽しさやいろいろな表現の仕方を知りました。コロナの状況で実際に会うことはできませんが、またオンラインで授業してください。（児童/第6学年/シンガポール日本人学校チャンギ校）
- 子どもたちからまた踊りたい！という声も出ており来年のワークショップも是非実現させたいと思った次第です。他の教員もこの活動に大変感銘を受けて、是非中学部でも同じような形でやっていただきたいそうです。（担当教師/シドニー日本人国際学校/派遣：福岡県）
- 「GIGA スクール構想の実現に向けて、ICT環境の導入が進む学校現場において、何をどのように指導すればよいのか悩める指導者へ、より分かりやすく、より取り組みたくなるような授業の指導案を提案するために、「創作ダンス」の授業デザインモデル指導ガイドを作成することができました。日本の教育も豊かにしていくという目的を達成するために、同じ教育ニーズのある他国とともに新しい「創作ダンス」の教材と一緒に開発した実践研究が他の国へも広がってほしいです。」（参与観察教員/上海日本人学校虹橋校/派遣：宮崎県）※本研究の研究協力者
- 今回の授業を通して本当に未来を感じました。今回僕たちが体験したことは、未来ではゲームの中に入ることが可能になってくるのかなと思いました。また、ゲームのキャラクターは「はーはー」しないけれど人間だからこそ「はーはー」するんだなとも感じました。とても「創作ダンス」に興味を湧きました。（児童/第6学年/上海日本人学校虹橋校）

シンガポール日本人学校小学部チャンギ校、シドニー日本人国際学校、ソウル日本人学校から継続してほしいという声（前述）を受けて、本研究終了後（2022年～）も実施を検討することになった。特筆すべき成果は、上海日本人学校虹橋校から帰国した担当教師と連携し、国内での実践（2022年）に繋がっている点である。これは、全国から教員が集まっている海外日本人学校だからこそその利点であり、日本全国に逆輸入し、国内の教育関係者とともに学びや問い直しを深める省察の場を設けること、そして、海外展開モデルと海外日本人学校の教員・児童生徒の豊かな越境の経験を日本の教育現場に還元する「海外日本人学校等展開型」モデルの汎用性を示すことができた。

以上のことから、コロナ禍の影響を受けながらも、本研究の当初の目的を達成することができたとと言えるのではないかと。

今後は、遠隔ワークショップを活用しながら、これまでに実施できていない国・地域での実践研究を進めつつ、日本の「創作ダンス」や「表現」の取組数の増加を図っていきたい。

<参考・引用文献>

- ① 松本千代栄, ダンスの教育学 第1巻 ダンス教育の言論, 1992.11, 6-8
- ② コミュニケーション教育推進会議審議経過報告書, 子どもたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～, 2011.8, 5-13
- ③ 国立大学法人京都大学, 2020年度「日本型教育の海外展開の在り方に関する調査研究事業」最終成果報告書, 2021.3, 274-283

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 豊福 彬文（宮崎大学国際連携センター）矢吹 修一（いわき芸術文化交流館アリオス）野邊 麻衣子（上海日本人学校 虹橋校）
2. 発表標題 芸術家×教師の新しい協働からみえたオンライン授業の可能性
3. 学会等名 2020年度第72回舞踊学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 豊福彬文（宮崎大学国際連携センター）児玉孝文（宮崎大学産学・地域連携センター）野邊壮平（宮崎大学産学・地域連携センター）
2. 発表標題 子供のゲーム依存症の防止に資するダンス教材「ゲームごっこ」の実践研究
3. 学会等名 2021年度第73回舞踊学会大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

海外子女教育振興財団誌（2022年1月号） <a href="https://www.joes.or.jp/kyoiku_news/detail/264">https://www.joes.or.jp/kyoiku_news/detail/264</a> 2020年度EDU-Portシンポジウム <a href="https://www.eduport.mext.go.jp/event/symposium/symposium-2020/">https://www.eduport.mext.go.jp/event/symposium/symposium-2020/</a> 「EDU-Portニッポン」トピックセミナー（体育教育） <a href="https://www.eduport.mext.go.jp/event/topic/topic20200828/">https://www.eduport.mext.go.jp/event/topic/topic20200828/</a>
--

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	高橋 るみ子  (takahashi rumiko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	野邊 麻衣子  (nobe maiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Children Creative Movement Forum vol.1 (China × Canada × Japan)	開催年 2021年～2022年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------